



学校だより

令和8年11月号 岩国市立岩国小学校 大野 元良



岩国小HP

～「やまぐちPRIDE」の醸成～

10月は、6年生の修学旅行をはじめとして、大きな行事が続きました。学年に応じた目標を掲げ、前向きに取り組む姿に感心するばかりで、確かな成長を感じています。そして、2学期の後半を迎えます。季節外れの暑さを感じる日もありましたが、ようやく過ごしやすい季節の到来です。気温差が激しくインフルエンザの流行等が気になる中ですが、子どもたちには元気に充実した日々を過ごしてほしいと願っています。

さて、標題の「やまぐちPRIDE」の醸成という言葉は、昨年度、山口県教育委員会から発信されたものです。7月の学校だよりでも少し話題にしています。

山口県においては、人口減少や人口流出が大きな課題となっています。そこで、「ふるさと山口」の未来を創る心意気を子どもたちに育み、明るい地域づくりにつないでいくことを目標として示された言葉が、「やまぐちPRIDE」の醸成だと捉えています。具体的には、「ふるさとを思う心を育む教育」の実践が重要となります。

岩国小学校では、コミュニティ・スクールとして、地域の皆様のご協力をいただきながら、地域連携教育の活性化に取り組んでいます。総合的な学習の時間には、学年ごとにテーマを設定して、地域の皆様等からお話を聞かせていただく場面設定や、地域に貢献できることはないだろうかと考えた活動に取り組んでいます。直近では、2年生「九九ボランティア」や、高学年家庭科「調理実習支援」、音楽交流会等へのお力添えで、子どもたちは、地域の皆様とつながる温かさを感じてくれていることだと思います。

ところで、今年も日本人のノーベル賞受賞のうれしい話題を耳にしました。お隣の広島県府中町出身の、硯合憲三（そあい けんそう）東京理科大学名誉教授です。新聞社の取材では、故郷広島への思いを寄せる中で、年に2回の帰省のことに触れ、首都圏にない風景で海と島が見えると、それがまた落ち着くとのこと。また、帰ったら1回はお好み焼きが食べたくなるとも語っておられます。ふるさとを思う心を基盤に、大きな研究の成果をあげられたことが分かります。

岩国の地におきましても、地域の皆様と連携した教育活動の中で、子どもたちの「地域への所属感」の高まりを期待するとともに、将来にわたってふるさとを思う心が育まれることを願っております。取組について検証・改善を図りながら、「いわくにPRIDE」の醸成につないでいきたいと考えています。

～交流活動(わくわく)で学ぶこと～

【音楽交流会】

10月14日の音楽の授業（5年1組）に、試験的に地域の皆様の参加をお願いしました。学習の成果を届けようとする目的意識を高めることや、音楽を通じた交流の時間を楽しむことをねらいとしました。緊張感を伴いながら一生懸命演奏する子どもの姿や、交流を楽しまれる地域の皆様の姿が印象的でした。

【ふれあい集会】

29日に集会活動「ワクハピエンジョイ集会」を行いました。特別活動という領域の児童会活動としての取組です。自己紹介やゲームを通して、異学年の子どもたちの交流を図りました。6年生のやさしい言葉かけや、子どもたちの笑顔がいっぱいの時間でした。

さまざまな交流活動の場を設定することで、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」など、「生きる力」として重要な資質・能力の育みにつないでいきたいと考えています。「いわくにPRIDE」の醸成との関連も念頭に置いて、活動の充実を図ってまいります。



音楽交流会



ワクハピエンジョイ集会

「安心・安全（にこにこ）」「交流（わくわく）」「探求・探究（どんどん）」